



はやわかり!

住民総参加型のスポーツイベント

チャレンジデー ガイド



CHALLENGEDAY GUIDE



住民総参加型のスポーツイベント

チャレンジデーって何だろう？

チャレンジデーは、「住民の健康づくり」や「まちの活性化」を図るきっかけづくりのイベントです。
住民が一丸となって取り組み、得られた成果はまちの財産となります。
「チャレンジデー」を、あなたの自治体でも実施してみませんか？
笹川スポーツ財団が応援いたします。

5月の最終水曜日に 全国一斉開催

毎年5月の最終水曜日に人口規模がほぼ同じ自治体で、午前0時から午後9時までの間に、15分以上継続して運動やスポーツを行った住民の「参加率(%)」を競い合い、敗れた場合は、**対戦相手の自治体の旗を庁舎のメインホールに1週間掲揚するというユニークなルールによって行われる**住民総参加型のスポーツイベントです。

Let's Try
15min

いつでも、どこでも、 誰でも参加できるのが特徴

チャレンジデーは、従来のスポーツイベントのように一部の限られた人たちがスポーツをするのではなく、その日チャレンジデーを実施する自治体にいる人であれば、自宅・学校・職場など、どこでも、どんなスポーツをしてもよく、年齢・性別問わず誰でも気軽に参加できる点が大きな特徴です。コミュニティづくりや自治体の活性化にもつながります。
チャレンジデーは行政・民間団体・住民が一体となって取り組むスポーツイベントです。

地域の
活性化

住民の
健康づくり



チャレンジデーの はじまり

チャレンジデーは、1983年にカナダのサスカチュワン州のサスケトーン市を中心とする50市町村で始まりました。その後、カナダ全土に広がり約600もの自治体を実施し、5人に1人が参加するカナダ最大のスポーツイベントとなりました。カナダでは、チャレンジデーを11年間実施した結果、週2回以上、運動やスポーツをする人が5%から35%まで増加するなどめざましい成果をあげました。日本では1993年から笹川スポーツ財団が日本のコーディネーターとして全国へ普及活動を行っています。



大縄跳びは大勢で参加できるので、チャレンジデー当日は多くの小中学生がチャレンジしています。

海沿い、川沿いの自治体ではカヌーの体験なども実施。初挑戦もなんのその！



チャレンジする内容はさまざま！
例えばこんなものがあります。



気軽に取り組めるラジオ体操は、多くの自治体で行われています！



ご当地のダンスや踊りなど、主にファイナル・イベントでは郷土色豊かなプログラムで参加率アップを狙います！



誰でも気軽に参加できるウォーキング。最近ではごみ拾いウォーキングや名所旧跡を巡るものなどさまざまです。

チャレンジデーを実施すると、さまざまな メリットがあります

1

誰でも 気軽に楽しめる

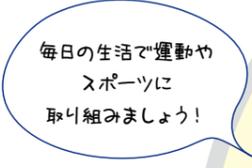
チャレンジデーは、年齢・性別を問わず誰でも気軽に参加できます。そのため、たくさんの人に運動やスポーツの楽しさ、素晴らしさや爽快感を実感していただくことができます。



2

健康づくりに 対する意識がアップ

チャレンジデーは、住民が運動やスポーツを通じて健康に対する意識を高めるきっかけづくりになります。運動やスポーツの習慣化を目指しましょう。



3

みんなで 元気! いきいき!

運動やスポーツの習慣化を図ることで、元気でいきいきとした住民が増え、自治体の医療費の削減にも影響します。チャレンジデーを実施することで、自治体が元気になります。



4

自治体間の 交流のきっかけに

チャレンジデーをきっかけに、さまざまなかたちで自治体間の交流が生まれます。過去の事例では、お互いの特産物の交換を通じて継続的な交流がスタートしたり、山間地域と海浜地域で子どもたちの夏・冬交流が実施されているケースもあります。



エール交換(左:鳴門市長・右:逗子市長)



5

スポーツによる まちづくりに 役立つ

チャレンジデーをきっかけに、自治体のスポーツ振興への関心が高まり、スポーツによるいきいきとしたまちづくりにつながります。



CHALLENGEDAY Topics

徳島県三好市/大分県豊後高田市 チャレンジデーで地方創生

徳島県三好市では「毎月第4水曜日は三好市チャレンジデー」、大分県豊後高田市では毎年10月に「豊後高田市版チャレンジデー」など、チャレンジデーの特徴を活かし、独自の事業として取り組む自治体もあります。こうした事例がスポーツによる健康長寿や地域の活性化につながり、地方創生への期待も高まります。

徳島県三好市



大分県豊後高田市

くわしくは▶ P.15

チャレンジデーのルールとは

チャレンジデーは、以下のルールにより実施します。

- 実施日時** **毎年5月の最終水曜日** 午前0時～午後9時(21時間)
※この時間内であればいつでも参加可能
- 参加対象** チャレンジデー当日、チャレンジデーを実施している自治体にいる人
※住民以外に通勤者、通学者、観光客なども対象になります。(年齢・性別問わず)
- 実施種目** **15分以上継続**した運動やスポーツなど
- 実施場所** チャレンジデーを実施する自治体の、自宅や学校、職場、スポーツ施設、広場など
- 対戦組み合わせ** 人口規模がほぼ同じ自治体間で対戦。双方の合意により特定の自治体同士(姉妹都市、友好都市関係同士など)での対戦を希望する場合は、その要望を優先することができます。(要相談)
※対戦組み合わせは、人口規模、過去の実績、エリアなどを考慮し、3月上旬に笹川スポーツ財団が決定します。
人口規模のカテゴリー分けについては、右ページのメダル授与基準表をご参照ください



参加報告の方法

基本的に自己申告とします。概ね以下の方法が一般です。

☎ 電話

予め集計センターの電話番号を周知し、当日参加した際にはその電話番号に連絡して参加の報告をするよう徹底します。

📄 報告用紙

予め参加報告用紙を配布し、当日参加した際にはその用紙に必要事項を記入し、自治体内各所に設置された集計BOX(郵便ポストのようなもの)へ入れてもらいます。

✉ メール

予め集計センターのメールアドレスを周知し、当日参加した際には必要事項を入力し、そのメールアドレスに参加報告のメールを送信してもらいます。



参加報告の締め切り

チャレンジデーは午後9時に終了となりますが、参加者は午後9時30分までに集計センターへ参加報告をしなければなりません。



ダブルカウントの禁止

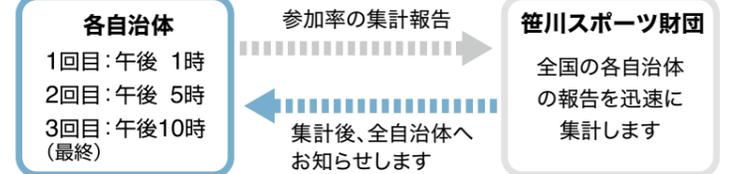
チャレンジデー当日、参加者の報告は1人1回のみです。各自治体の集計センターでは、参加の報告を受ける際に「今回何回目の報告か?」を確認するなど、ダブルカウントが生じないようにする必要があります。



集計方法

参加率の集計報告

各自治体は、右記の時間に笹川スポーツ財団へ参加率の集計状況を報告します。笹川スポーツ財団では、全国の集計状況を取りまとめ、各自治体へ一斉にお知らせします。



参加率の途中集計

各自治体は、参加率の集計を1時間ごとに取りまとめると便利です。この集計状況を刻々と住民に知らせることで、まだ参加していない住民の参加意欲を高めます。また、報道機関からの問い合わせにも即座に対応できます。

参加率の最終結果報告

最終参加率は午後10時までに笹川スポーツ財団まで報告してください。笹川スポーツ財団では各自治体の参加率を取りまとめ、午後11時頃までに、最終結果として公式発表します。



勝敗の判定

対戦自治体間の勝敗と取得メダルを判定し、公式発表します。

セレモニー

敗れた場合には、対戦自治体の旗を1週間庁舎のメインポールに掲揚し相手に敬意を表します。(最近では、勝敗に関係なくお互いの健闘を称え、両者の旗を一緒に掲揚する自治体がほとんどです)

メダル認定証の授与

参加率に応じた金・銀・銅のメダル認定証を授与します。

メダル授与基準表

カテゴリー	人口(人)	金メダル(%)	銀メダル(%)	銅メダル(%)
1	4,999以下	65以上	40以上65未満	40未満
2	5,000～9,999	61以上	35以上61未満	35未満
3	10,000～29,999	55以上	31以上55未満	31未満
4	30,000～69,999	50以上	29以上50未満	29未満
5	70,000～249,999	50以上	25以上50未満	25未満
6	250,000以上	40以上	20以上40未満	20未満

メダル認定証(金)



チャレンジデーを通じた自治体と笹川スポーツ財団の連携

笹川スポーツ財団では、チャレンジデー実施自治体を対象に「スポーツ政策意見交換会」や「まちづくりセミナー」を開催し、スポーツ現場の実態把握やスポーツの最新事例の紹介を行うことで、自治体のスポーツ振興への支援とスポーツ政策の充実を積極的に対応しています。



スポーツ政策意見交換会の様子

詳しい内容については、笹川スポーツ財団までお問い合わせください

プランニングをしっかりとしよう!

チャレンジデーまでのスケジュール



チャレンジデーは自治体全体で取り組むスポーツイベントです。実施の決定から関係各所への協力要請、住民への周知活動、組織(実行委員会)づくりなど、概ね以下のスケジュールで準備を進めるとスムーズな運営が可能となります。

※予算の確保や議会の影響で、実際には1月以降に実施決定する自治体もあります。

各段階での詳細はP.9~13をご覧ください



※下記スケジュールはあくまでもモデルケースです。実際には、より短いスケジュールで実施する自治体も多いです。



詳しくは **P.9**

詳しくは **P.10**

詳しくは **P.11**

詳しくは **P.12**

詳しくは **P.13**

- 実施の検討
 - テーマ・目的の検討
 - 企画・運営の組織づくり
- 実施の申し込み
 - 予算の確保
- 住民への広報活動

チャレンジデーの実施が決まったら、住民への広報を積極的に行いましょう

- 実行委員会の設置
- イベントのプランニング
- 広告ツールの製作
- 広報活動
- 参加協力依頼
- 報道機関への積極的な働きかけ
- 集計方法の検討
- 対戦相手が決定了したら
- 対戦相手との自治体旗の交換

どんなイベントにするか、みんなで話し合おう。広報活動もどんどんやろう

- 運営ボランティアの募集
- 対戦相手とのメール交換
- 参加報告用紙などの配布
- 広報の強化

もうすぐ本番…

- イベント・プログラムの実施
- 参加率の集計
- 参加率集計の報告
- 関係者への報告
- 反省会の実施
- メッセージの交換
- 自治体旗の掲揚セレモニー
- 実施報告書及び決算書の提出

5月の最終水曜日は、いよいよチャレンジデー! いろんなスポーツを楽しもう。

イベントは終わってからの大切。来年に向かってGO!

My CHALLENGEDAY Story

プロスポーツ昭和50年会との連携・協力



プロスポーツ昭和50年会に所属する元ラグビー日本代表の伊藤護さんは秋田県男鹿市出身。チャレンジデー2012で同市にチャレンジデー大使として赴き「最も恩返ししたい場所で社会貢献することができた」とコメントをいただきました。事務局の岡幹事長も、「チャレンジデーはスポーツを通じて何ができるのかを考える良い機会となる。今後も継続して協力したい」と話され、これからも笹川スポーツ財団との連携を約束されました。

※プロスポーツ昭和50年会:昭和50年(1975年)に生まれたプロスポーツ選手の親睦会で社会貢献を活動目的としている。詳細は <http://pro50nen.com/>

第1段階 10~12月

みんなでじっくり検討を!
アプローチ

① 実施の検討

チャレンジデーは、自治体全体で取り組むスポーツイベントですので、関係部局、民間の関連団体、住民サイドなどと十分話し合う必要があります。



② テーマ・目的の検討

チャレンジデーは、運動やスポーツの習慣化を図るきっかけづくりのイベントです。健康意識の向上や運動・スポーツに対する意識の向上を図るうえでも、テーマ・目的を明確にする必要があります。



③ 企画・運営の組織づくり

チャレンジデーを実施するためには、自治体全体で取り組む体制づくりが必要です。そのため、行政と民間団体、学校などが協力して企画・運営できる態勢を整えることが重要です。



④ 予算の確保

予算の確保

チャレンジデーの実施に必要な予算を検討します。

笹川スポーツ財団からの資金援助

必要に応じてチャレンジデー実施の運営経費の一部を支援します。
※自治体ではなく、運営主体となる実行委員会組織に対し助成します。

協賛金

地元企業をはじめ各組織からのスポンサー協力を積極的に働きかけましょう。

⑤ 実施の申し込み

チャレンジデーの実施が決定しましたら、笹川スポーツ財団までご連絡ください。

申し込み受付
2月中旬まで

⑥ 成功のカギを握る周知活動
住民への広報活動

チャレンジデーの実施決定後は、参加者となる住民にイベントの趣旨や内容を十分に理解していただくよう周知（広報）活動を実施します。チャレンジデー成功のカギは、この周知（広報）活動にかかっていると言っても過言ではありません。



第2段階 1~3月

委員会の決定と広報活動!

プランニング

① 実行委員会の設置

広報活動の方法、協力依頼、協賛依頼、イベントの企画や実施内容、当日の運営方法などを決定する組織（実行委員会）を設置します。

※実行委員会の代表は、基本的に各自治体の首長が就任することになっています。



② イベントのプランニング

地域の特徴を活かしたイベントや、フィナーレを飾るファイナル・イベントなど、住民の関心を高めるイベントを企画しましょう。

③ 広告ツールの製作

ポスターやチラシなどを製作し、住民に配布しましょう。なお、製作物にはチャレンジデーのロゴやイラストを使用してください。

④ 広報活動

広報誌や防災無線などあらゆる媒体を利用して、チャレンジデーの内容、当日の参加方法などをPRしましょう。（最近はFacebookやTwitterを利用しての周知も多くなっています）

⑤ 関係機関・団体への参加協力依頼

住民一人ひとりはもちろん、学校、企業、その他関係機関にグループ単位の参加を呼びかけることも大切です。



⑥ 報道機関への積極的な働きかけ

事前・当日の取材依頼を積極的に働きかけます。報道機関に取り上げられれば、住民の意識も高まります。



⑦ 集計方法の検討

参加者の登録をどのようにして集計するのか。“ダブルカウントを防ぐ”というルール以外に特に決まりや制限はありません。当日の集計方法について、取り組みやすい方法を実行委員会の中で検討してください。



⑧ 対戦相手が決定したら

- 相手がどんな自治体なのか住民に周知します。
- お互いの健闘を祈ってエールの交換をします。
- お互いの自治体旗の交換をします。



第3段階 4~5月

準備はしっかり入念に

③ カウントダウン

① 広報の強化

有線放送や防災無線、広報車による巡回などで周知徹底を図ります。チャレンジデー当日はどこで何をすればいいの、具体的に紹介することが大切です。また、近隣の報道機関への情報提供や取材依頼なども積極的に行いましょう。最近ではFacebookやTwitterを利用した周知も多く見られます。



② 参加報告用紙などの配布

参加者に記入してもらう参加報告用紙を事前に製作し、配布します。(新聞折込、自治体広報紙などを活用)

アイデア PLUS 参加報告用紙にアンケートを含めることで自治体のスポーツ推進の参考となる貴重なデータを入手することができます。



③ 対戦相手とのエールの交換

お互いの健闘を祈って対戦相手と実行委員会の代表(首長)によるエール交換を行ってください。

- エール交換は、電話やインターネットを利用したテレビ電話などさまざまな方法があるので、対戦相手とも相談のうえ調整ください。
- エール交換を行うことで、事前の情報交換もスムーズとなり、自治体間交流が促進されます。

④ 運営ボランティアの募集

スポーツ推進委員をはじめ各種スポーツ団体、住民に呼びかけボランティアを募りましょう。自治体の広報誌などで広く一般に呼びかけるのも効果的です。



第4段階 5月最終水曜日

いよいよ本番!

④ チャレンジ

① イベント・プログラムの実施

企画どおりにイベント・プログラムが実施されているか、各イベント・プログラムの参加状況はどうなっているかを逐次確認します。チャレンジデー当日はスポーツ施設(体育館・プール・各種競技場など)の無料開放をはじめ、さまざまなプログラムを実施する自治体が増えています。

競技種目系



- ゲートボール交流大会
- グラウンド・ゴルフ大会
- 老人会主催のミニ運動会
- 還暦軟式野球大会
- 市民綱引大会

ウォーキング系



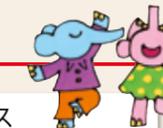
- ノルディックウォーキング
- 午前0時からのナイトウォーキング
- ショッピング(買い物)ウォーキング
- ごみ拾いウォーキング(スポーツごみ拾い含む)
- 名所旧跡歴史などの再発見ウォーキング

体操・ダンス系



- 早朝ラジオ体操・一斉ラジオ体操など
- 親子体操教室
- やさしいヒップホップダンス
- お昼休み出張エアロビクス
- 社交ダンス体験

ユニーク系



- スーパーママチャリレース
- NOカー通勤デー(徒歩・自転車通勤を奨励)
- ディスコダンス大会
- ご当地踊り(阿波踊り・ソーラン・よさこいなど)
- 24時間駅伝・24時間ソフトボール

② 参加率の集計

集計は1時間ごとに取りまとめ、集計本部をはじめ役場入口や公民館など、住民がたくさん集まる場所に表示すると効果的です。まだ参加していない住民の参加意欲を高めたり報道機関などからの問い合わせにも容易に対応できます。

③ 参加率集計の報告

自治体は、当日の参加率集計状況を①午後1時②午後5時③午後10時に笹川スポーツ財団まで報告してください。笹川スポーツ財団では、全国の集計状況を取りまとめ各自治体へ一斉にお知らせします。

? 当日もわからないことがあれば、笹川スポーツ財団へ TEL.03-5545-3303

CHALLENGEDAY Topics

兵庫県豊岡市 プログラム紹介

兵庫県豊岡市ではチャレンジデー当日、市内小学校区の総合型地域スポーツクラブによる対抗戦が行われ、参加者の多いクラブを表彰するなど、チャレンジデーがクラブの周知と会員の獲得、地域コミュニティの活性化に一役買っています。



くわしくは▶P.17

第5段階 6~8月

チャレンジデーの成果を自治体のスポーツ政策に活かそう

フォロー

1 自治体旗の掲揚セレモニー

敗れた自治体は、チャレンジデーの翌日から対戦自治体の旗を庁舎のメインホールに1週間掲揚し対戦相手に敬意を表します。
(最近では、勝敗に関係なくお互いの健闘を称え、両者の旗を一緒に掲揚する自治体がほとんどです)



2 実行委員会の代表(首長)によるメッセージの交換

対戦自治体とメッセージを交換し、お互いの健闘を称えます。

3 関係者への報告

準備段階から実施に至るまで協力を得た関係機関、団体、企業、そしてもちろん参加者(住民など)へ実施報告をしましょう。(住民へは自治体広報誌を通じて行うケースが一般的です)
また、チャレンジデー以降も運動・スポーツの習慣化を意識してもらうよう呼びかけましょう。

4 反省会の実施

次回に向けてのステップアップのために、実行委員会で反省会を実施してください。多くの方々の意見・要望が、次回のステップアップにつながります。

5 実施報告書及び決算書の提出

チャレンジデー終了後、以下の書類(所定の様式)を笹川スポーツ財団へ提出していただきます。

- 実施報告書**
- 事業報告書
 - 実施プログラムなどの概要資料
 - 実施状況の写真(事業内容が確認できる写真5~6枚程度)
 - ポスターや横断幕などの設置状況の写真
- 決算報告書**
- 収支決算書

CHALLENGEDAY Topics

秋田県井川町 町内会ポイントによるチャレンジデーと町民体育大会の相乗効果

秋田県井川町では、チャレンジデーの参加率と町民体育大会の結果をポイントで合算し、ポイントが最も大きい町内会を表彰しています。歴史があり町民に人気の町民体育大会とチャレンジデーの連動で町民の健康への意識の向上を図っています。



くわしくは ▶ P.18

ワールドチャレンジデー

海外の自治体と対戦

チャレンジデーには、国内対戦以外に、海外の自治体と対戦する「ワールドチャレンジデー」があります。現在、世界の多くの国々が参加しています。

実施概要

- 実施日時 5月の最終水曜日、午前0時~午後9時
- コーディネーター TAFISA※(本部:ドイツ)
- 対戦組み合わせ方法 TAFISAによる募集・抽選
- 日本の連絡窓口 笹川スポーツ財団

実施までの主な流れ

まず、参加の旨を笹川スポーツ財団に連絡ください。
(申し込みは、笹川スポーツ財団を通して行います)
TAFISAが作成した実施概要を送付します。対戦相手は、TAFISAによる抽選で決定します。



※TAFISA(The Association For International Sport for All)…国際スポーツ・フォー・オール協議会
世界中のスポーツ・フォー・オール推進団体(130カ国・地域から200団体以上が加盟)を束ねる世界最大規模の国際組織

笹川スポーツ財団からのサポート



チャレンジデーの運営についての不明点は、笹川スポーツ財団までお気軽にお尋ねください。各種サポートいたします。

資金面でのサポート

チャレンジデー実施に必要な経費の一部を支援いたします。

イベントグッズの提供

チャレンジデーの周知に必要な各種イベントグッズ(ポスター、Tシャツなど)の一部を提供いたします。

実施自治体担当者への情報提供

チャレンジデー実施自治体の担当者が円滑に準備が進められるよう、確認事項や連絡事項などをお伝えする「チャレンジデーメールニュース」を随時発信いたします。

チャレンジデーのPR

チャレンジデーをより一層盛り上げるため報道機関をはじめとする関係機関に対して広報活動を行います。



Tシャツ

ポスター

チャレンジデーから始まった 新たな事業のご紹介

チャレンジデーの特徴やプログラムを活かし、独自の事業として取り組む自治体の事例をご紹介します。
スポーツへの意識向上や地域コミュニティの活性化、健康長寿のまちづくりなど、地域創生にもつながる可能性が...

毎月チャレンジデー自治体紹介

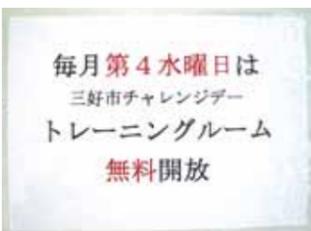
徳島県 三好市

「毎月第4水曜日は“三好市チャレンジデー”」

●ご担当者から
毎月第4水曜日は市内2カ所の体育館のトレーニングルームを無料開放するなど、運動スポーツをやすくして参加を呼びかけています。

毎月第4水曜日は
三好市チャレンジデー

毎月 チャレンジデー
毎月 運動をしよう!



体育館に貼られた案内

目的

三好市は2006年からチャレンジデーを(合併前の池田町は2003年から)開催しています。
2010年から、市民に運動・スポーツ習慣の定着とスポーツによるまちづくりや地域の活性化を目的に、チャレンジデーの特徴を活かし『毎月第4水曜日は“三好市チャレンジデー”』を実施しています。

内容

スポーツ施設の一部無料開放や総合型地域スポーツクラブによる指導などを行っています。通常のチャレンジデーとは異なり対戦はしませんが、住民が自主的に運動・スポーツを楽しむ日となっています。
毎月第4水曜日の三好市チャレンジデーの日には無料開放の施設利用者が増加傾向にあります。



水曜日を「ノー残業デー」にしている地元の企業や事業所からの参加が増えています!

秋田県 男鹿市

毎月最終水曜日は、 ミニチャレンジデー

- 住民が自主的に15分以上の運動・スポーツを行い、自ら報告します。(通常のチャレンジデーのようにイベントやプログラムの用意はありません)
- 実施日や参加率は男鹿市のホームページや広報を通じて周知しています。
- 報告は体育施設や公民館に電話やEメール、FAXで行います。
- ミニチャレンジデーを始めてから通常のチャレンジデーの参加率が上がっています。

市の広報で
参加率を発表!

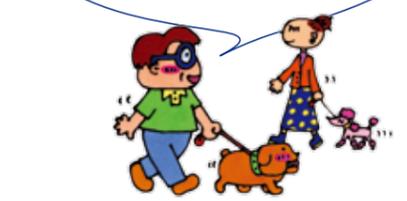


福島県 伊達市

毎月最終水曜日は 伊達市チャレンジデー

- 健康づくりの習慣化を目指して始めました。
- 伊達市スポーツ振興公社がイベントやプログラムを行っており、高齢者向けに市内体育館で体力測定を兼ねた運動などを実施しています。

40歳以上の市民を対象にウォーキングや各種健康プログラム等に参加することで「健康ポイント」が得られ、商品券やPontaポイントに変えられるプロジェクトを実施するなど、健康づくりに積極的に取り組んでいます。



秋田県 由利本荘市

地域別ミニチャレンジデー

- 市内の地域で実施しています。
- 各地域では、ミニチャレンジデーの日を決めており、市の広報で住民に周知しています。(水曜日とは限りません)
- 行政の出張所や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等の協力により開催しています。

■1月のミニチャレンジデー
◆日時…1月27日(水)
【矢島】ミニニス 13時半～14時半 矢島体育センター
【由利】レクリエーションスポーツ体験会 9時半～11時半 由利B&G体育館
【大内】8人制バレーボール 9時～15時 松本体育館
【東由利】ゲートボール 10時～正午 げんき館
【西目】軽スポーツ 13時半～15時 西目B&G体育館
【島海】8人制バレーボール教室 19時～20時半 島海トレーニングセンター
【岩城】ボウリング 1月31日(日) 9時～11時 (詳しくは本誌1月号をご覧ください) ④ スポーツ課 ☎ 32-11334

中には、
日替わりで実施している
地域もあるなど、
チャレンジデーが
住民に定着しています



これらの事業の詳細は笹川スポーツ財団ホームページに掲載しておりますので、お気軽に担当までお問い合わせください。

その他の取り組み紹介

北海道
愛別町・鷹栖町・
東神楽町

B&G秋のチャレンジデー



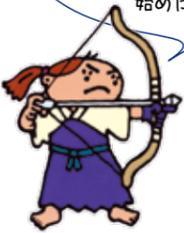
実施の3町は普段から様々な面で連携しており、スポーツの拠点として「B&G海洋センター」があり、メイン会場のひとつになっている。



距離も近いので、3町長によるエール交換から、とても盛り上がっているんだ。



チャレンジデーは5月で農繁期のため、参加が難しい農家の方にもスポーツを楽しんでもらうため、10月の体育の日に「秋のチャレンジデー」を3町で始めたんだ。



兵庫県
豊岡市

校区対抗チャレンジデー

●ご担当者から

総合型地域スポーツクラブを地域住民に知ってもらい、クラブ会員の増加と地域コミュニティの活性化を目指しています。



参加者が多いクラブは表彰されるぞ!!

小学校区毎にある「総合型地域スポーツクラブ」どうしてチャレンジデー参加者数を競うことで、参加者増とクラブの周知につながっています!



(カテゴリー1の順位)

順位	チーム名	参加者数
1	ひだか・せいしゅう	411人
2	とよおか新田	309人
3	とよおか三江	285人
4	こくふ	180人

(カテゴリー2の順位)

順位	チーム名	参加者数
1	とよおか中筋	147人
2	とよおか奈佐	77人
3	たかはし	37人

7校区のスポーツクラブ21が参加しました。校区の人数でカテゴリーを二つにわけ、校区ごとの参加者数を競いました。

校区対抗チャレンジデー

参加者上位校区(チャレンジデー2015)

秋田県
井川町

町内会別ポイント制によるチャレンジデーと町民体育大会との連動

●ご担当者から

歴史と人気のある町民体育大会に加え、多くの町民がチャレンジデーにも参加して、スポーツの楽しさを味わっています!

チャレンジデー(5月)と町民体育大会(6月)の結果をポイントで合算し、ポイントが最も大きい町内会が優勝できるんだ。



毎年、町内会で競争して盛り上がってます!!



ポイントについて

チャレンジデー参加率 1%→1ポイント	+	町民体育大会の 順位ポイント	=	総合ポイント
------------------------	---	-------------------	---	--------

大分県
豊後高田市

豊後高田市版チャレンジデー

●ご担当者から

チャレンジデーを参考に、多くの市民に健康づくりに励んでもらい、健康長寿によるまちの活性化と過疎化の対応で始めたのが「豊後高田市版チャレンジデー」です。参加者も毎年増えています。

多くの団体を表彰することで「やる気」を喚起しています

- 上位3団体(各団体別、人数別に設定)
- 特別賞(敢闘賞・チャレンジ賞)
- 敢闘賞:参加率90%以上
- チャレンジ賞:参加率70%以上
- 最高齢参加者:ベストプラチナ賞(2015年から)
- 80歳以上の参加者:プラチナ賞

参加者が多いと表彰されるぞ!! プレゼンテーションもできるんだ!!



毎年10月の1ヵ月間、1日15分以上運動した人の参加率をグループ(※)で競うんだ。



(写真2つとも)豊後高田市HPより

※自治会や事業者などのグループ単位、小中学校PTAなど。

これらの事業の詳細は笹川スポーツ財団ホームページに掲載しておりますので、お気軽に担当までお問い合わせください。

**チャレンジデーは、以下のような自治体からの
エントリーをお待ちしています！**

笹川スポーツ財団との連携を通じて、スポーツ施策の
充実を図りたい自治体(市・特別区・町・村)を募集します。



スポーツ振興に関する
新たな計画などの策定を検討している自治体

スポーツによる
地域の活性化と住民の健康づくりを図りたい自治体

地域団体と行政機関が連携し、
生涯スポーツの普及に積極的に取り組んでいる自治体

「スポーツ・健康宣言」を行っている自治体
(例：健康都市宣言、スポーツ都市宣言、スポーツの町宣言など)

チャレンジデー実施によるさまざまな効果が期待できます。

笹川スポーツ財団の調査実施手法や
スポーツ振興に関する各種情報を活用できます

住民の運動・スポーツ実施への意識向上と
習慣化が期待できます

住民の横断的な交流が図られ、
まちの活性化や地元への愛着心の向上が期待できます

対戦相手の自治体をはじめ、全国からエントリーする自治体と
スポーツ振興に関する情報交換ができます



笹川スポーツ財団 研究調査グループ チャレンジデー担当

〒107-6011 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル イーストウイング11階
TEL:03-5545-3303 FAX:03-5545-3305 <http://www.ssf.or.jp/> email:cdays@ssf.or.jp